

## 第2章 学習内容の関連を踏まえた言語活動の充実

### 1 知識・技能の活用を図る学習活動

学習内容の関連を踏まえることにより、授業において知識・技能を実生活の様々な場面に活用する活動を効果的に設定できるとともに、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する活動の設定が確実になされる。例えば、小学校国語科第4学年において、文学的な文章を教材とした単元を年間で4単元設定している場合、「読むこと」の指導事項ウ「文学的な文章の解釈」に盛り込まれている基礎的・基本的な知識・技能を重点化して配列し、段階的に指導することが大切である。その際、各単元ではそれらの知識・技能を活用して課題を解決することができるよう、日常生活に必要とされる音読、交流、紹介、発表といった言語活動を手段として設定する（図5）。このように学習内容の関連を踏まえることで、それぞれの単元で「何について考えさせるのか」が明確になり、思考力・判断力・表現力を育成する上で適した言語活動を教材の特性に応じて効果的に設定することができる。

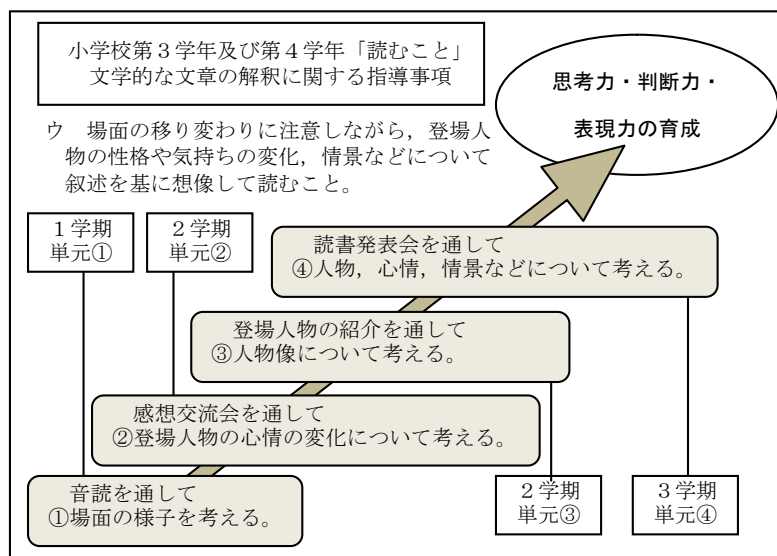


図5 知識・技能の活用を図る学習活動の例

### 2 見通し・振り返り学習活動

思考力・判断力・表現力の育成に当たっては、知識・技能の習得を図り、それらを活用させる学習活動の充実を図ることと合わせて、見通しを立てたり振り返ったりする学習活動の重要性がこれまでも指摘されている。本研究で重視する学習内容の関連は、一連の学習過程において、前回の学習内容を児童生徒に提示したり想起させたりすることにより、学習の充実に効果的に働くと考えられる。例えば、見通しの段階では、前回の学習を踏まえた新たな問いや解決の方向性に気付かせることができる。また、活用の段階では事前に行った言語活動の成果を想起させることで、情報の収集や整理を効率よく行わせることができる。さらに、振り返りの段階では、児童生徒が前回の学びと比較して、自身の「思考・判断・表現」の伸びやよさを実感できるようになる。

学習内容の関連を踏まえて見通し・振り返り学習活動を行うことは、見通したり振り返ったりすべき学習内容そのものを明確にすることにつながる。その時期に児童生徒が習得・活用して課題を解決するのに必要な知識・技能を確定し、思考力・判断力・表現力を確実に育成することができる。例えば、算数（第6学年 単元「いろいろな形の面積」）における円の一部の面積を求める学習課題に取り組む実践では、扇形の面積の求め方を考える学習の中で、「扇形が円全体に対してどれだけの割合



図6 見通しの学習活動の例

になっているか」という見方で考えればよいことに気付かせるために、既習単元での学習内容である「1分は1時間を60等分したうちの1つ分を示している。」という見方を想起させる見通しの学習活動に取り組みさせた（図6）。具体的には、本時に関連する既習内容をホワイトボードに示し、時間の関係について扇形と同じような図形を基にして考えたことを想起させた。この指導により、求めたい扇形の中心角を360で割れば、円の面積に対する扇形の面積の割合が明らかになることに気づき、課題の解決に取り組むことにつながった。

### 第3章 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」に基づく「思考・判断・表現」の指導と評価

#### 1 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定

第1章3で述べた「判断基準」を、学習内容の関連を踏まえて設定すると、思考力・判断力・表現力の継続的な育成を確実に行うことができる考える。

学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定は、図7のようにして行う。具体的には、前回の学習内容と比較してどのような向上を図ることができるか、前回学んだどのような力を本単元ではどう生かしているかなどの関連の様相を分析することによって、妥当性の高い「判断の要素」や「判断基準」を設定する。そして、習得した知識・技能の活用を図る、思考力・判断力・表現力が最も発揮される場面において、評価を実施する。

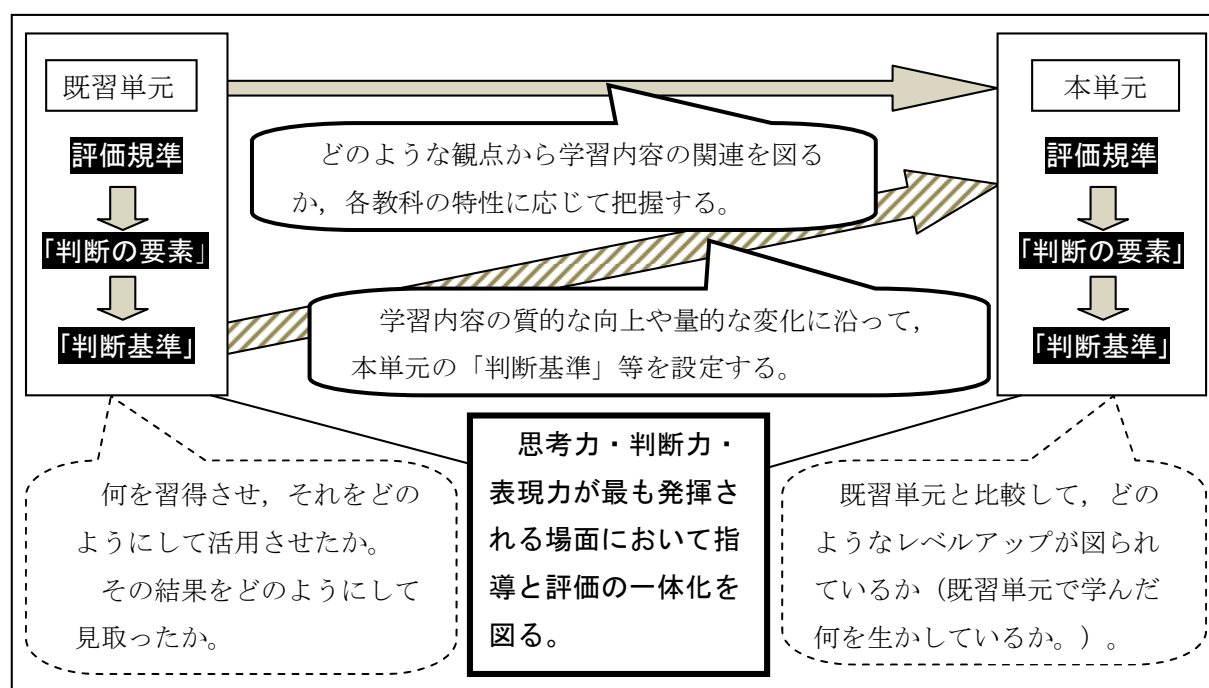


図7 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定（単元間に学習内容の関連がある場合）

この学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定は、文部科学省が平成26年3月31日にとりまとめた「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理—【主なポイント】」の「③育成すべき資質・能力に対応した学習評価について」の項で示されている「評価の基準を、『何を知っているか』にとどまらず、『何ができるか』へと改善することが必要。（後略）」との指摘に対応する一方策となり得るものとする。「何ができるか」とは、課題の解決に必要な「知っている」ことは何であるかをこれまで学習したことの中から見付け出し、それを活用してひとまとまりの文章に表現することができるということや、そのことによって課題を主体的に解決するために自ら思考・判断・表現することができる、というこ